

# 平成23年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

## I 自己評価

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号

58

1 学校教育目標	1 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 2 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけるとともに、創造性あふれた明朗快活で心豊かな人間性を養う。
2 現状の分析	○本校の教育方針や指導目標に共感でき、本校を選んでよかったと感じている生徒や保護者が多い。 ▲学校全体のレベルが向上し、それぞれの教育活動において多くの実績をあげることができるようになった。その反面、岡本校舎・山田校舎両校舎間や各学科間で、活動時間や活動場所等について様々な調整が必要となってきた。
3 学校の抱える課題	・学科間で連携した教育活動のさらなる推進を図る。 ・学校が発信する情報を全校生徒や保護者に効率よく伝え、情報の共有化を図る。
4 今年度の具体的な重点目標	◇岡本校舎および山田校舎両校舎の生徒の交流の機会を増やし、各学科の生徒が、他の学科の学習内容や学ぶ姿を知り、高め合うことができる教育活動を推進する。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
1 学習活動	①研究授業を実施し、各教科ごとに研究会を実施 ②学科間で連携した教育活動の推進 ③全校生徒が参加する学習成果発表会の実施	①保護者生徒による授業評価 ②ぎふ総合型選択制の科目選択状況 ③学習成果発表会に対する、生徒の満足度	①生徒保護者を対象とするアンケート結果より、授業に対する肯定的評価保護者88%、生徒91% ②ぎふ総合型選択制で他学科の設定科目を選択する生徒68人(のべ人数) ③各科の学習内容が良く理解できた感想多数	B B A	○各科の生徒が校舎間、学科間を超えて実施する「学習成果発表会」は、他学科の学習内容を知るだけでなく、先輩の学ぶ姿を後輩に伝えることができた。 ▲飛騨高山高校のスケールメリットを生かす学習の機会のさらなる工夫を要する。	A B C D
2 特別活動	①部活動の活性化 ②生徒会活動の活性化 ③生徒が主体的に活動する場の提供	①部活動の活動実績 ②生徒会活動の活動状況 ③MSリーダーズ活動参加状況と生徒の感想	①女子ハンドボール部、国体4年連続5位入賞等 ②生徒会主導による挨拶運動の実施 ③MSリーダーズ登録人数297人	A B A	○運動系・文化系各部活動の実績が年々向上している。 ▲ぎふ清流国体での活躍が期待されている。	
3 進路指導	①個々の生徒に応じた進路の実現 ②適切な進路情報の提供	①生徒の進路状況 ②進路情報の提供の工夫	①就職内定率 94.5% (2月末現在) ②F_NAVI(卒業生による進路ガイダンス)やキャリア教育教員研修の実施	B A	○左記②は、生徒・教員ともに進路(キャリア教育)に対する啓発となった。 ▲生徒の進路実現のため今後も求人先の開拓を要する。	

### II 学校関係者評価

実施年月日：平成24年1月25日

- 生徒の様々な活躍に感動した。学校内だけでなく、地域への社会貢献活動などは、地域の小学生や中学生にも良い影響を与えている。
- 卒業生について、学科の一体感はあるが、学校全体としての一体感がない感じがする。
- 現在の経済状況を学ぶ機会はあるのか。子どもたちが迷わないように、時代に合った学習や情報を与えてほしい。

12 来年度に向けての改善方策案

- 学習成果発表会のような、両校舎の生徒が交流し学び合う場の提供について、工夫改善を重ね、学科を超えた生徒同士の情報の共有化をさらに推進していく。
- 来年度早々に岐阜経済大学との高大連携協定を締結し、大学の力を借りて、生徒や教員へ時代に合った専門的な知識の向上に努めていく。
- メール配信システムを導入し、緊急連絡や必要な情報を生徒や保護者に提供する。